

令和7年4月9日 入学式

式 辞

校庭の桜も咲き誇り、まさに春爛漫の今日のよき日に、御来賓の皆様、入学生のご保護者の皆様の御臨席を賜り、令和7年度愛媛県立八幡浜高等学校入学式を執り行うことができますことは、私たち教職員にとりまして大きな喜びであります。

先ほど、入学を許可いたしました191名の皆さん、入学おめでとうございます。新入生の皆さんが、ここ八幡浜高校で過ごす3年間は、生涯の礎を築き上げる大切な時期です。皆さんの中にある限りない可能性を探り当て、自身を大きく成長させてくれることを期待しています。

創立125年目を迎える本校は、これまでに38,580人の有為な人材を社会に送り出してきました。現在も、勉学、礼儀、健康、融和、奉仕の校訓の下、主体的に行動する生徒の育成を目指して、日々の教育活動に取り組んでいるところです。

さて、将来の変化を予測することが困難な時代を迎え、学校教育においても、そのような先行き不透明な時代を、たくましく生き抜く力を培っていくことが求められています。

先頃、ラジオパーソナリティなどで活躍する辛坊治郎氏の著書「風のことは風に問え」という本を読みました。一人でヨットに乗り込み、途中でどこの港にも寄らず、5か月間かけて、太平洋を横断するという冒険を記した本です。65歳にして、二度目の挑戦でみごと成し遂げた体験が、航海日誌を元に克明に綴られています。周到な計画の下、太平洋を横断するわけですが、2万キロに渡る旅の途中には、荒々しい自然の猛威や思いがけないトラブルが待ち受けます。予測困難な様々な出来事に対して、これまで身に付けてきた知識と経験をフルに生かして立ち向かう姿は、とてもたくましく感じられました。日常においては、これほどまでのたくましさを求められることはないでしょうが、周到な準備をすることや、一歩踏み出す勇氣は見習いたいものだと思います。

予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わることが大切です。その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を、自ら創り出していくことが重要だと考えます。そのためには、解き方があらかじめ定まった問題を、効率的に解く力を育むだけでは不十分です。これからの時代においては、膨大な情報

から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められます。

本校においても、様々な学習の場面で、思考力を問うたり、体験活動を充実させたりしています。最新のＩＣＴ機器を導入し、探究学習や教科横断型学習の充実を図っています。また、地域や企業と連携したプロジェクト型学習を通して、今後必要とされる資質・能力の育成を目指しています。このように、学校では、様々な仕掛けを用意し、皆さんを支援するつもりです。

現在、国内外を問わず、自然災害や国同士の争いごとなどにより、大変な思いをしている人々がいることを、私たちは知っています。当たり前のように学校に通うことができる幸せに、心から感謝しなくてはなりません。

皆さんには、今置かれている環境を生かし、様々なものに興味を持ち、掘り下げていてもらいたいと思っています。失敗を恐れず、何事にも果敢にチャレンジしてってください。社会や世界と広く関わりながら、皆さんが更に成長されることを楽しみにしています。

むすびに、保護者の皆様、本日は、お子様の御入学、誠におめでと

うございます。お子様の更なる成長と自律を目指して、学校と家庭が
手を取り合って進んでまいりたいと思っておりますので、本校教育
活動への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、新入生の皆さんが、本校で充実した高校生活を送られる
ことを祈念いたしまして、式辞といたします。

令和7年4月9日

愛媛県立八幡浜高等学校 校長 菊池 博喜